

En+Design通信 第1号 2014.10.08

◎はじめに

こんにちは。En+Designメンバーの本山実里（もとやまみさと）です。

この度、新しい試みとして、全体のまとめのニュースレターとは別に、一参加者であるもとやま目線での振り返りレターをお届けすることとなりました。客観的なまとめのニュースレターも必要ですが、逆に、主観的な記述だからこそみえてくるものもあるような気がしたからです。「こんな一例がいるんだな」と思っていたら、小さな脳みそを一生懸命働かせて書きました。笑

もとやまの暴露本ともいえるこのニュースレター。いつものニュースレターよりも随分と格が落ちますが、最後までお付き合いいただけたら幸いです。



もとやまモデルでふりかえる、今年度のまちステの歩み

◎膨らみ始めた違和感

昨年度は、あれやこれやアイデアを膨らませてきましたね。(ニュースレター参照) 今思えば、昨年度、わたし自身は勢いで突き進めていたところがありました。

今年度に入って、「2つの施設をつくる」という目標が具体的に動き出しました。それに反して、わたしは何がしたいのかだんだんわからなくなってきて、さらにWSでのファシリも全然うまくできなくて、ふがいない自分に負い目を感じるようになっていました。

「WSも毎回同じことをしている気がする。En+Designとは？と聞かれた時にちゃんとこたえられない。各施設の違いもちゃんと説明する自信はない。そもそも何のために施設をつくるんだっけ？施設は本当に必要とされていたんだっけ？そんなことを考えてしまうわたしは、一体何をやっているんだ？」と、自分の中の主体性がぶれてきていたことに気づき、悶々とし始めていました。

でもそんなある日、ちょっとしたきっかけから、わたしはEn+Designの中で「わかりません」宣言ができました。

「組織のあり方とか情報伝達の効率化とか、悔しいけどいい意見やアイデアがわたしには思いつきません！話が難しくなってくるとわたしの脳みそは追い付けません！そしてカタカナ用語も辞書がないとわかりません！笑」と、En+Designメンバーに公表したのです。

「En+Designメンバー自体の出席率も低下してきていたのは、もしかしたら他にもわたしと似たような状況にある人がいるんじゃないか？そして、わたしがEn+Designの底辺としておバカ丸出しでも参加したら、いろんな人がそれぞれの状況に応じて参加できるんじゃないか？」と、開き直ってしまったのです。笑



そんな、おバカポジションを自認したとたん、なんだか心が軽くなって、「そうだ、わたしにもきつとなにかまでできることはあるはずだ！」と思えるようになりました。

また、WSでのファシリテーション（進行・促進役）がうまくいかなかった時に、同じテーブルの方からの言葉で気づいたことがあります。それは、「全部自分でどうにかしようと思わなくていいんだ。自分の苦手なところはそれが得意な人をお願いすることで、自分も助かるし相手も光って一石二鳥じゃない!?」と。すごい他力本願ですね。笑

ですが、わたしは重要なことなんじゃないかと思っています。「自分にはできないことができる仲間がたくさんいるんだから、まずは、わたしはわたしにできることを頑張ればいいんだ!」「今はまだできないことは、それができる仲間から技を吸収してしまえばいいんだ!」と開き直り、なんだかわたしは、また楽しくなってきたのです。

とはいえ、「混乱」(今何をしようとしているのか、なぜ違和感が膨らんでいるのか、この不安感や居心地の悪さはどう説明したらいいのか、わたしの思考能力はめっちゃ低レベルでこの場にはいない方が自他のためなんじゃないか、でも逃げ出したら無責任なんじゃないか…などのモヤモヤ堂々巡り)に陥っているということ、ようやく自覚はしたけれど、実際にその混乱をどう打破したらいいかまでは、まだ整理できずにいました。

そんな中でも、ある日、各部会の報告を聞いていたときに、シクミ部の中にわたしが本来やりたかったことのヒントが隠れているような気がしました。そして、秋分の日を過ぎた頃、自分の容量オーバーを避けるために躊躇していた部活動へ、悪あがきのゴとく参加してみることにしました。

◎シクミ部初参加の日のできごと～ようやく自覚した混乱と、自己嫌悪との再会～

その日、超緊張しつつ初参加したシクミ部では、今まであいまいにしていた問題が露呈して大きな渦が巻き起こりました。気の小さいわたしは、もう全身全霊でおろおろするばかり。笑 「あの人の言うこともこの人の言いたいこともゴとくよくわかる。だけど、じゃあわたしはどうなんだと聞かれてもやっぱり何も言えそうにない…」と恐怖すら感じていました。今までわたしは何をやっていたんだ？再び自分の思考能力の低さに愕然としました。

ただ、あの日ずっと考えていたのは、ほぼ発言の無い人が、何をどう感じてこの場にいるのかということでした。それは、何も言えずにいたわたし自身の問題でもあったからです。

…と、いうことは、わたしが等身大の混乱を公開してしまえば、もっとみんながこの場にアクセスしやすくなるんじゃないか？再び、そう開き直ったのです。笑

複数人で何かを決めるには意思決定の仕組みを整えておかないといけないので、シクミ部云々の前に話し合っておかなければならないことはまだまだ山積みのはずでした。なのに、わたしはいつのまにか目の前の議事録しかみえなくなっていたのです。それが、混乱の始まりだったのかもしれない。



◎Ent+Design 雑談会

感謝祭直前の9月26日金曜日の夜、Ent+Designメンバーは「すべしやる雑談会」を開きました。何かを決めるための会議ではなく、お茶やおやつを囲みながら、みんなが今どう感じながらやっているのかを自由におしゃべりする気楽な会。

少なくともわたしにとっては、すごく重要な気づきをいくつか得られ、大満足な会でした。まじめな話もそうで無い話もいろいろおしゃべりできたのですが、今さらながらようやくEnt+Designメンバー同士「知り合う」ことができたと思いました。

その中でわたしが一番に思ったのは、「ここには、とおかまちを動かしていく意志のある人が結集しているんだ!」ということでした。その日集まれたメンバーも、残念ながら来られなかったメンバーも、そしてカタチ部シクミ部に参加している人たちも、おいしいごはんを差し入れてくださるお母さんたちも…得意分野や興味関心の方向性は多様でも、共通している意志がある気がしました。それこそが一番大切なことなんじゃないか!?と思ったのです。

それに気づいたとき、見失っていた自信がちょっとだけ戻ってきた気がしました。うまく言えないのですが、「この仲間がいれば何かできる!」という漠然としたワクワク感が湧いてきたのです。

帰ってきたわずかな自信



当然、とおかまちを動かしていくためには厳しい場面もどんどん出てくることでしょう。叩かれ、罵られ、敵対することもあるかもしれませんが、ひとりとひとりのパーソナリティ(人格)を知り合うことで「断絶」や「墜落」のようなかたちにはならず、納得して次に進める気がしました。

そして、わたしたちがやっているのは、これからはじまるとおかまちエボリューション(進化)の重要な過程なんだ!と思いました。

何かを決めるためではなく、お互いを知り合うためのおしゃべり会。そんな会を、今後はみなさんとも持てたらいいなと思っています。

◎感謝祭でみつけたもの

そうして迎えた、28日の感謝祭。わたしが気づいた次の2つの点を、みなさんにお伝えしておきたいと思います。

・迷ったときはコンセプトブックをひらいてみよう!

前半の説明に何度もコンセプトブックが引用されましたが、まさにコンセプトブックこそがわたしたちの原点となる思いが凝縮されているのではないのでしょうか。申し訳ないことに、わたしは雑談会数日前に、久しぶりにコンセプトブックを開きました。そしたら、大事なことがたくさん書かれています。ありませんか!笑 コンセプトブックは、これからはわたしたちの大事な羅針盤として活用していったらいいんじゃないかなと思いました。

・わたしたちが手にするもの

少なくともわたしもとやまにとっては、この間の感謝祭はとてもいい区切りの日でした。とおかまちエボリューションの足がかりとなる施設をつくる過程の進捗状況を青木事務所さんに説明してもらって、仲間をつくる過程では、今は「混乱期」にあるということをおかまちさんに整理してもらえたのではないのでしょうか。

わたしたちは、「新しい建物をつくるため」というよりも、これからの「新しいとおかまちをつくるため」に今、立ち上がったのではないのでしょうか。

そして、今わたしたちが試行錯誤している活動で得られるものは、新しい施設もそうなのですが、それ以上に、とおかまちでいきる(生きる・活きる)仲間を得られるということが、かけがえのない宝ものなのではないのでしょうか。

とおかまちにいきる仲間だ!という意識を忘れなければ、これからまたぎっと訪れる数々の困難にも柔軟に対応していける気がしています。

お宝げっちょ〜だ



◎おわりに

長々と書いてしまいましたが、ここまでわたしの稚拙な文章に目を通してくださったことに心から感謝いたします。

本当はもっと早い段階でこのようなお便りを出せていたらよかったのですが、何せわたしの咀嚼機能が未熟なもので、ようやく今、ここまでまとめられるようになったのです。

でも、まだまだみなさんの中にも咀嚼しきれない部分があるのではないのでしょうか。わたしは、みなさんがどんな気持ちでこのプロジェクトに携わっているのかが非常に気になっています。

そんなわたしが、僥倖ながらEnt+Designのひとりとして、そして一市民として思いの丈を綴ったこのお便り。これが、皆さんのコミュニケーションの円滑油になればいいなあ願いつつ、ここからペンを置きたいと思います。

わたしたちのとおかまちづくりは、ここからこそ本番です。

感謝祭をひとつの転換期として、ここからみなさんと、ここにまだいないいろいろな人を巻き込んでいく工夫をしていく必要があると思っています。それぞれができることを活かしあいながら、多くの人々が活躍できるキラッキラなおかまちになればいいなと思っています。

それでは、また。

Ent+Design 通信 第1号

発行日: 2014.10.08

編集担当: 本山 実里

